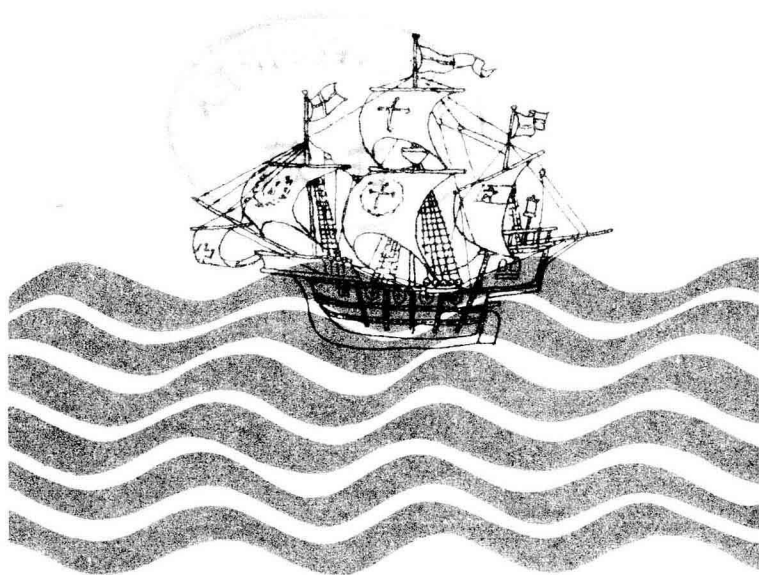
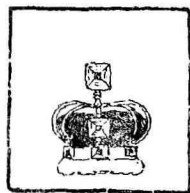


シェークスピア名作集

シェークスピア作
大木 惇 訳





この物語について



シェークスピア——。

世界文学の中でも、もっともゆうめいな劇作家であり、詩人であるこの大文学者の名まえを知らない人は、おそろくないでしよう。

それほど、シェークスピアの作品は、四百年もたつたいまもなお、たくさんの人々に読まれてゐるばかりでなく、舞台や映画で、世界じゅうの人々のはくしゆをあびてゐるのです。

シェークスピアは、いまでは、その生まれた国イギリスだけのたからでなく、世界のたからになつてゐるのです。そして、このたからは、これからのちも、年がたつにつれて、古くなるどころか、ますます新しく

光りかがやいていくでしょう。

それは、なぜでしょうか。そのこたえは、ここにおさめた四つの作品を読んでくださればわかります。いずれも、シェークスピアの数多い作品の中の、つぶよりの名作なのです。

「ベニスの商人」

「リア王」

「ハムレット」

「ロミオとジュリエット」

これらを読んだとき、みなさんは、きつと気づかれるにちがいありません。人間のもっているあらゆる心の動き——よろこび、かなしみ、なやみ、いかり、ずるさ、まぬけさなど、美しいものも、みにくいものも、よいことも、わるいことも、すべてが、いきいきとえがきだされてゐることを。

そうです。だからこそ、シェークスピアは、永遠に新しいのです。

ゆうめいな詩人のコールリッジという人はいいました。「シェークス

ピアは、千万の心をもっている作家だ。」と。

ですから、シェークスピアの作品を読むことは、いわば、人間の心のすべてを勉強することにもなるのです。

そればかりではありません。シェークスピアの作品は、いりくんだすじを、じつにたくみにさばいていて、読みはじめたらやめられないほどおもしろいのです。

シェークスピアの劇は、もともと、詩の形で書かれたものですが、ここでは、みなさんにわかりやすく読んでいただくために、なるべく舞台のじゆんじよをおいながら、物語ふうに書いてみました。

そして、イギリス人などが、いまでも、ことわざかなんぞのように口ずさんでいる、美しい名せりふは、なるべくのこして、みなさんにあじわってもらうようにしましたから、どうぞ、そこからも、人生のふかい教えをまなびとってください。

一九六〇年 春

大木 惇 夫

ベニスの商人

友だちのために……………14

一ポンドの肉……………21

金のはこ、銀のはこ、なまりのはこ……………29

かなしいたより……………39

裁判はじまる……………46

男装の裁判官……………53

一てきの血もながさずに……………61

指輪さわぎ……………68

よろこびの朝……………76

リ　ア　王

三人の王女……………83

おいだされたケント……………92

二つの手紙……………100

弟のわるだくみ……………110

足かせ台のカイアス……………120

あれ野のさけび……………129

つぶされた二つの目……………137

父の手をひいて……………144

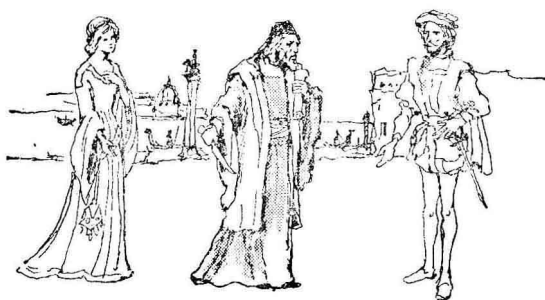
三度、らっぱをふけ……………153

やすらかにねむれ……………162

ハムレット

ゆうれいのでる城 ^{しろ} ……………	169
かなしみの王子 ^{おうじ} ……………	177
剣 ^{けん} にちかう……………	184
にせきちがい……………	194
あま寺 ^{でう} へいけ……………	203
ゴンザゴごろし……………	210
カーテンのかけ……………	218
兄 ^{あに} と妹 ^{いもうと} ……………	225
しずんだ花かんむり……………	234
さびしいとむらい……………	242
毒 ^{どく} をぬった剣 ^{けん} ……………	249
天 ^{てん} 使 ^し の歌 ^{うた} ……………	257
ロミオとジュリエット……………	
広場 ^{ひろば} のけんか……………	263

かそうぶとう会 ^{かい}	272
愛 ^{あい} のちかい.....	278
よろこびとかなしみと.....	286
わかれのなわばしご.....	295
ふしぎなねむり薬 ^{ぐすり}	301
墓 ^{はか} の中 ^{なか} で.....	308
二つの金 ^{きん} の像 ^{ざう}	315
解 ^{かい} 説 ^{せつ}	323



✂ この物語のおもな人々 ものがたり ひとびと

ベニスの商人 しやうにん

アントーニオ

ベニスのわかい商人。友だちのバツサーニオのために、金貸しのシャイロツクから三千ダカットの金をかりてやったが、やくそくの日までにかえせなくて、じぶんの肉一ポンドを切りとられる裁判にかけられる。

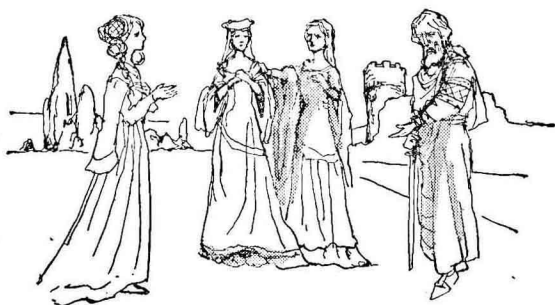
シャイロツク

ユダヤ人の金貸しで、ベニスじゅうの人々から、へびのようにきらわれている老人。

ふだんアントーニオからさげすまれているのをうらんで、三千ダカットの金をかりにきたのをさいわい、しかえしをしようとしたくらむ。

ポーシャ

バツサーニオと結婚したベルモントの金持ちのむすめ。夫のために男装して法廷へのりこみ、そのすばらしい知恵で、ぶじアントーニオをすくう。



リ

ア

王

リア王

ブリテン国の王。三人のむすめに領地をわけ
て、じぶんはいんきよしとうとしたが、生まれ
つきがんなうえに、年をとっていたため、末むすめコーデ
リアの本心がわからず、かんだうしてしまふ。やがて、姉む
すめたちのむごいしうちにあつて、目がさめたときはおそ
く、あれ野をさまよい、気がくるつてしまふ。

ゴネリルとリーガン

リア王の長女と次女。ことばたくみ
に父王をだまし、領地と王のかんむ

りをうばつたらうえ、たずねてきた父王をおいだしてしまふ、
はら黒い女。

コーデリア

リア王の末むすめ。きよらかなやさしい心の
持ち主。領地をわけるとき、その心を見あや
まられてかんだうされ、フランス王のきさきになる。やが
て、父王をすくいにやってくるが、いくさにまけて姉たちの
軍隊にとらえられ、かなしいさいごをとげる。



ハムレット

ハムレット

デンマークの王子。城の高台で父王ハムレットのゆうれいから、じぶんは、弟のクロウディアスに毒でころされたのだとつけられて、かたかくたきうちをちかう。が、やさしい心をもった青年王子は、いろいろになやみ、きちがいのでふりをして、そのときのくるのをねらっている。

クロウディアス

兄王をころして、デンマーク国王になったが、なんとかして、ハムレットをころしてしまおうと、ひきょうなたくらみをめぐらす。そして、とうとう、じぶんでもつた毒をあおってたおれる。

オフエリア

ハムレット王子と愛しあっていたが、父ポロニアスの死と、ハムレットのきちがいにあって、気がくるい、じぶんであんだ花かんむりといっしょに、川におぼれて死んでしまう。



ロミオとジュリエット

ロミオ

ベロナの都、モンタギュー家のひとりむすこ。

むかしからなかのわるいキャピュレット家のむすめ、ジュリエットと愛しあい、結婚するが、かの女のいとこのチボルトをころしたために、都からおいだされる。ジュリエットが死んだと聞いて、じぶんも、そのそばで死のうと、毒薬を手にいれて、キャピュレット家の墓へむかう。

ジュリエット

キャピュレット家のむすめ。ロミオがおいだされて、かなしみにくれているところへ、パリス伯爵との結婚をすすめられたので、ロレンス僧正にたすけをもとめに行く。そして、僧正からねむり薬をもらってのみ、みんなに死んだと思いこませて、墓の中へはこばれる。

ロレンス僧正

ロミオとジュリエットを結婚させて、むかしからあらそっている、モンタギュー家とキャピュレット家をなかなおりさせようとするが、思いがけない手ちがいから、ふたりを死なせてしまう。

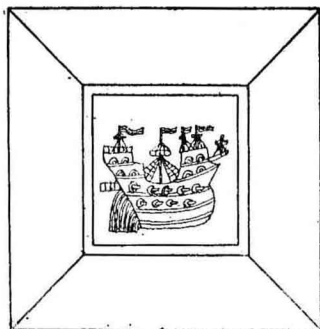
ほう 装 レイ	ほん 本 アウト	あん 安	の 野	みつ 光	まさ 雅
---------------	----------------	---------	--------	---------	---------

はこ 箱 さ	し	え 絵 え 絵	にし 西	むら 村	やす 保	し 史	ろう 郎
--------------	---	------------------	---------	---------	---------	--------	---------

SYŌNEN SYŌZYŌ SEKAI MEISAKU ZENSYŪ

シェークスピア名作集

シェークスピア 作
大 木 惇 夫 訳





ベニスの商人^{しやうにん}

友だちのために^{とも}

イタリアのベニス^{ベニス}は、ゴンドラのかいの音^{おと}にあげ、船^{ふね}うたにくれる水^{みづ}の都^{みやこ}である。

むかしから、外国^{ぐわいこく}のめずらしい品物^{しなモノ}をつんだ船^{ふね}が、さかんにではいりしたので、はでなあきないをする金持ち^{かねもち}の商人^{しやうにん}が、おおぜい住^すんでいた。

そのひとりに、アントーニオというわかい商人があつた。大きな船を五、六そうも持ち、なに不自由なくくらしているうえに、めずらしくしんせつな男で、友だちはもちろん、こまつている人のためには、どこまでもつくそうという、りっぱな心の持ちぬしだったから、たいそう町のひょうばんもよく、みんなから愛され、うやまわれていた。

ある日のこと。アントーニオは、町かどでいちばんなかのよい友だちのバツサーニオに、ぼったりであつた。

「やあ、バツサーニオ君。このあいだのやくそくどおり、きょうは、おもしろい話を聞かせてくれるだろうね。」

すると、いつもほがらかなバツサーニオが、ひどくしおれながらいったのである。

「アントーニオ君。きみもうすうすは知っているだろうが、ぼくはいま、とてもよわっているんだ。身分がいのぜいたくなくらしをしたために、借金が山のようにつもつて、もうどうしようもないところまでできてしまったんだ。きみには、いままでにもずいぶんめいわくをかけているが、どうか、もういちどだけ、ぼくのうちあけ話を聞いてくれないか。」

「バツサーニオ君、ぜひうちあけてくれたまえ。不名誉なことでさえなければ、ぼくにできるかぎりのことはなんでもするから。安心したまえ、ぼくの財産でも、からだでも、きみのためなら、よ